

1 教育事業名 「イチ・ニ・サンゴ大作戦」 ～サンゴ礁の海に生きるわたしたち～
2 ねらい

今日、海の環境について学校教育やマスメディアを通しての啓発により、サンゴ礁の価値に対する認識は広まってきている。しかし、身近にあるサンゴに関する形態や生態等を科学的に学ぶ機会はほとんどない。

本事業では、実際に野外でサンゴ礁を観察し、サンゴの種類や分類や生態、サンゴ礁に生息する生物を調査する。また、サンゴの海と共に生きてきた島の人の話を聞いたり、サンゴ礁海岸の遺跡や史跡の見学を通し、太古の昔から受け継いできたサンゴ礁からの恵みについて学ぶ。

そのまとめとして、とかしく湾のサンゴ礁マップの作成・発表を行い、より正確な現状認識をもつとともに、今後の海洋利用のあり方を考え、環境問題に継続的に関心を持ち、保全のために行動する児童生徒を育成する機会とする。

3 期 日 平成27年10月10日(土)～12日(月) 2泊3日

4 場 所 国立沖縄青少年交流の家

5 募集定員 24名

6 参加人数 23名(1名体調不良でキャンセル)

7 参加者内訳 小学生5・6年生22名 中学生1名
(男性12名 女性11名) (県内23名 県外0名)

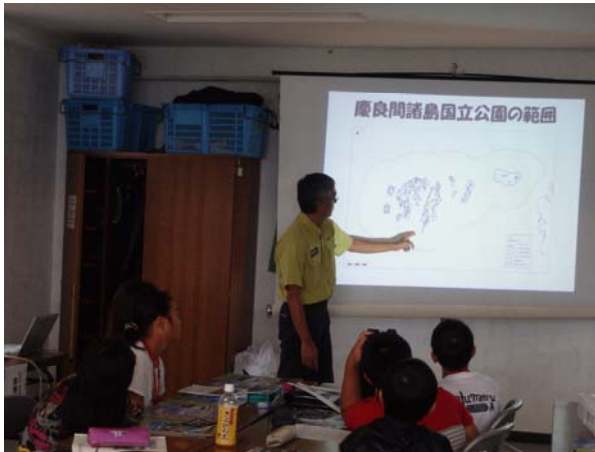
- 8 講師
- ・岸秀蔵氏(環境省慶良間自然保護官事務所) 講話「国立公園慶良間の魅力と保全について」
 - ・永田俊輔氏(沖縄美ら島財団) 講義「サンゴ礁のお話」「サンゴの秘密をみつけよう」 実習「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴ礁マップ作成・発表」
 - ・今田求仁生氏(考古学研究者、海洋環境学研究者) 実習「サンゴ礁の贈り物を見つけよう」～岩礁生物観察、遺跡・史跡見学～
 - ・森有紀子氏、金城真里子氏、比嘉康裕氏、與那嶺悟氏、宮國淑氏 (スノーケリングインストラクター) 実習「とかしく湾の観察」「サンゴ礁ウォッチング」「サンゴ礁マップ作成・発表」

9 実施プログラム

| | | 9:00 | 10:00 | 11:45 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 16:00 | 19:30 | 21:00 | 21:30 | | |
|--------|--|--------|----------|--|------------------|--------------------------------------|-------|--------------------------------------|-------|---------------|----------------|------|----|
| 10日(土) | | とまりん集合 | フェリーとかしき | 移動 | 朝食 | 講話 | 仲間づくり | 実習① とかしく湾の観察 「スノーケリングの基礎と海中観察」 | 移動 | 夕食・入浴 | 講義① サンゴ礁のお話 | 就寝準備 | 就寝 |
| | | 8:00 | 8:30 | 11:30 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:30 | 19:30 | 21:00 | 21:30 | | |
| 11日(日) | | 準備・朝食 | 移動 | 実習② サンゴ礁ウォッチング 「慶良間海峡沿岸サンゴ礁生態系の観察」 | シャワー移動 昼食(弁当) | 実習③ サンゴ礁の贈り物 「船越原遺跡見学・岩礁の生物観察」 | 移動 | 根元家石垣見学 | 夕食・入浴 | 講義② サンゴの分類 | 就寝準備 | 就寝 | |
| | | 9:00 | 9:30 | 10:30 | 12:30 | 14:40 | 15:30 | 16:40 | | | | | |

| 作戦3 ～サンゴ大作戦 | | | | | | | | | | |
|-------------|-----|-------|----|-------------------------|----------------|------------------------------|------------------------|----|--------------|----|
| 12日(月) | つどい | 朝食・準備 | 移動 | 実習④ とかしき湾の サンゴ礁調査 | シャワー 昼食(弁当) | 実習⑤ サンゴ礁マッ プ作成・ 発表会 | エン デ ィ ン グ | 移動 | フェリー とかしき | 解散 |

10 事業の様子
(1日目)



国立公園慶良間諸島の魅力について



スノーケリングの基礎 ～機材について～



スノーケリングの基礎 ～海と親しむ～



実習①サンゴ礁のお話 ～ハイッ!～



サンゴ・プラヌラ幼生標本の観察



稚サンゴの観察 ～真剣～

(2日目)



実習②サンゴ礁ウォチング ～イエーイ～



サンゴ礁の海を観察



実習③サンゴ礁の贈り物 ～碇石発見?!～



ビーチロックが教えてくれること



ヒナクシで記念写真



根元家の立派な石垣を観察



講義②サンゴの分類 ～気づいたことを発表～



サンゴ骨格標本 ～休み時間も気になる～

(3日目)



実習④とかしく湾のサンゴ礁調査 ～行ってきます！～



実習⑤ サンゴ礁マップ作成



実習⑥サンゴ礁マップ発表会



とまりんでお迎えの保護者にもご報告

1 1 エピソード (参加者・保護者の声や観察より)

- ・ イチ・ニ・サンゴ大作戦を終えて、サンゴの大切さ、重大さ、サンゴの近くにいる魚たちのことを詳しく知ることができました。海を守るために、ゴミをすてない、スノーケリングや海に入ってもサンゴをけったりしないなどをやろうと思いました。来年も機会があったら、ぜひ行きたいです。
- ・ サンゴの秘密や今まで知らなかったことが分かって、とても勉強になった。私たちが海に捨てたゴミのせいで死んでしまった生き物を見てとても可哀想に思ったので、ゴミは捨てないようにしようと思いました。
- ・ スノーケリングも上手に出来て、浜の近くでもたくさんの魚、サンゴや海ガメが見れてびっくりだった。船で沖まで行って泳いだ時、広がるサンゴ礁と綺麗な魚、透明な海に、『帰りたくない』と言ってしまいそうになった。
- ・ サンゴに興味はなかったけど、サンゴは私達にすばらしい恵みをあたえてくれました。それを今どんどん破壊しているのがもったいないと思った。この海よさをもっといろんな人に知ってもらい、われわれ人類がもっと海の環境をしてそれに対応できるようにしたい。
- ・ 2泊3日でいろいろなサンゴのことが知れたし、弥生時代ぐらいの時からサンゴは役立っていることが分かってとても勉強になりました。これから海を守っていくために、海の中にあるゴミを取ったり、ポスターをはってゴミをすてないように、サンゴをこわさないようにしたいと思います。
- ・ サンゴは死んだら砂にもなるし、生きていたらサンゴ礁にもなるのですごいと思いました。サンゴを守るために、海からもってかえらないようにします。
- ・ 私は今までサンゴはただの石と思っていたけど、石ではないと知ってとても驚いたので、家族や友達に教えてあげたいと思った。
- ・ ヒナクシ海岸を散策しながら実習を行ったことにより、児童生徒は自分でみつけた土器や石器のかけら(と思われるもの)、うちあがったサンゴ骨格を拾い上げ、「これは何？」と目を輝かせて次々と講師に説明を求め、時間がいくらあっても足りないほどであった。

1 2 担当者所見

【成果】

以下の点から本事業のねらいである、サンゴやサンゴ礁についてのより正確な現状認識をもち、今後の海洋利用のあり方や環境問題に継続的に関心をもち、保全のために行動する児童・生徒を育成するというねらいは達成できたと考える。

- ・ オープニングの講話「国立公園慶良間の魅力と保全について」を聞くことで、参加児童生徒の慶良間諸島の豊かな自然とその保全の重要性について関心が高まり、事業全体への動機付けとなった。
- ・ プログラム始めの「仲間づくり」において、アイスブレイキングとグループごとの役割分担の確認を行い、みんなで協力して事業に臨む雰囲気が出た。宿泊学習は生活指導も伴うので、日常生活を見直し周りの人や環境への配慮を促せ、足下からの環境問題について考える機会ともなった。
- ・ 講義「サンゴ礁のお話」及び「サンゴの分類」では、サンゴの体のつくりや生活環、サンゴ礁の役割、サンゴ礁の環境問題について、サンゴの骨格標本やサンゴ幼生の標本を観察しながらの分かりやすい説明があり、サンゴやサンゴ礁への理解が深まった。
- ・ 「サンゴ礁ウォッチング」では、慶良間沿岸海域の環境の異なるポイント2ヵ所でスノーケリングをしながら生物の観察を行い、サンゴも環境の違いによって現れる種が異なることやサンゴ礁海域での生物の多様性や生物どうしの関わり合いについて直接学ぶことができた。
- ・ 「遺跡・史跡見学」では、太古の昔から、現在にいたるまでの渡嘉敷島の人々とサンゴ礁との関わりについて学べ、人が自然の恩恵を受けて生かされきた、という謙虚な姿勢で環境問題を考えることができた。最終日の「とかしく湾のサンゴ礁調査」では、水中カメラと、水中ノートを手で調査を行い、前日までの学習をフル動員して、サンゴの種類や特徴、生き物どうしの関わり合いについてグループで協力しながら調査した。
- ・ 「とかしく湾のサンゴ礁マップ作成・発表」では、自分たちで写したサンゴの写真や観察した生物のメモを元に、のびのびとマップに作り上げ、それぞれのグループで工夫をこらした発表を行った。
- ・ 事業終了後のアンケート調査では、全員が事業に参加して環境問題への意識が高まったと答えており、今後の行動化への期待がもてる結果となった。

【課題】

- ・ 台風シーズンに実施するため、荒天時プログラムや延期日程を含めた講師の調整が必要である。
- ・ 参加者の安全管理のために、スタッフの人数確保や緊急時の対応をスタッフ間で念入りに打ち合わせることが必要である。